

## ■ 2017年度 Aチーム 行動指針

マナー向上委員会 斉藤

目的：練習及び試合中の**指示⇒行動**からの脱却、大人主体思考からの脱皮。

：選手達が自ら考え、選手達が自ら行動する。

（選手間のコミュニケーション、主体性を強化、個々の進化を促す。）

最終的に（毎年同じ言葉を繰り返さない・常に進化する）・・・

【Wingsの伝統を確立する（礼儀・挨拶・活気・試合に向けた姿勢、態度）】

★勝つことだけが目的ではなく、「やるべきことをやって勝つ」チームを目指す！

課題：①公式試合固有の雰囲気（活気・緊張感）が無い[メリハリ（練習試合との差）]

②守備のポジショニング⇒コーチの指示がないと動かない、動けない

③声が小さい、少ない（消極的）

・ベンチの声援、守備位置からの呼び声⇒集中力に欠け、途切れやすい

・プレー（コーチを含む）⇒次のプレーに対する確認と指示ができていない

④支度・準備・片付けが遅い⇒状況に応じた対応、迅速性に欠ける

⑤大人が指示しないと勝てない思想⇒指示する事がステータスになっている

対策：①公式試合は、監督の指示以外、選手間のコミュニケーションを優先する

②選手間の指示の重要性を、個々にしっかりと認識させる（他人に任せない）

③声を出す習慣を身に着ける（黙って練習をしない、させない）

④勝敗に関わらず、試合のポイントについて反省会を実施する

（選手がわからない、出来ていないことを放置しない）

【仲間を信じよう！】2017年のテーマは「Believe」

★監督・コーチと選手間の信頼関係強化。コミュニケーションを大切に。

### ◆練習及び練習試合

#### □練習

・徹底して声を出す習慣を身に着ける。（黙って練習をしない、させない）

・コーチは、目に余る態度や非常識な行動を除き、**選手に怒鳴らない。**

選手の姿勢に対し、指導が必要と判断した場合は練習を一旦止め、全員を集めて練習の意図を理解するよう、冷静に分かり易く説明する。

（選手が集合すれば、大声を出す必要は無い）

身体能力の差を除き、**選手が理解・行動できないのはコーチの一因**でもあり、何をどうすれば良いか考え、常に選手と向き合って行動する。

#### □練習試合

・試合後は、反省点、今後の課題について、最低限の確認を選手と行う。

## ◆公式試合

### □試合前

- ・ベンチコーチは、練習及びミーティングにて課題と行動の確認を行う。  
(心のゆとり、試合に向けた体感・気持ちを作る)

### □試合中

- ・グラウンドに向けた指示は、基本的には**監督のみ**とする。
- ・選手への指示及び指導は、ベンチ内のみとし冷静に選手と会話する。  
(但し、監督がグラウンドへの指示が必要と判断した場合は、この限りではない)  
若しくは、選手を通し選手からグラウンドへ向けて指示させることが好ましい。
- ・**応援・保護者**は、プレーの間合い・場面を考え、必要以上に大声を出さない。  
また、選手に向けた応援以外の指示は、状況に応じ適正な指導であれば可とする。
- ・相手チームの良いプレーは賞賛する。

### □試合後

- ・勝敗に関係なく、好プレーに対する評価は必ず行う。(メンタルを高める)
- ・試合のポイント、反省点、今後の課題について、最低限の確認を選手と行う。

## ◆反省会

### ①選手 (プレーの評価、課題整理・確認の場とする：10分程度)

- ・良いプレーは何がどう良かったのか。
- ・悪いプレーは何がどう悪かったのか、何をどうすれば良くなるのか。
- ★監督、コーチ、選手全員が状況を把握し、レベルアップに繋げる。

### ②コーチ (姿勢・態度の見直し)：気になった点について確認の場とする：5分程度)

- ・反省点のみ、あれば指摘し、改善に繋げる。

## ◆補足

### 【基本姿勢】

- ・コーチは感情に任せ、ただ大声で怒鳴るのではなく、選手が理解することを最優先とし、極力冷静に選手とのコミュニケーションを図る。
- ① プラス1運動：1回叱ったら、2回褒める。(良い所を見つけ、褒めて伸ばす)
- ② 命令口調の自粛 (廃止?)：しろ!やれ!⇒しよう!やろう!
- ③ ポジティブな発言をメインとする。指導したあと、最後は前向きな発言でしめる。

### 【心構え】

- ・公式試合は、コーチ全員が大声で指示し選手を駒のように動かす場ではない。

グラウンドの主演は選手であり、監督の指示のもと日頃の練習の成果を発揮する大舞台であることを念頭に置き、元気に伸び伸びとプレーできる環境を作る。常に、エラーOK、向かっていく気持ちを発揮させるためのサポートに徹する。但し、監督が必要と判断した場合に限り、ベンチコーチのみが指示を行う。

#### 【最終目標】

- ・強豪と言われるチームは選手を信じ、ベンチはどっしりと見守る。  
ベンチは慌てず騒がず、常に平常心で選手と向き合う。  
前提的な考えから「学童だから試合中の指示は当たり前」として前面に出て大人が目立つのではなく、練習で教えてきたことを信じ、状況に応じた対応を行う。  
また、黒子的な役割のもと、選手が主役として躍動感に満ちたプレーが感じられる試合運営を第一に考える。  
目標は高く持ち、県内各所から「**強くて、素晴らしいチーム**」と称賛される南生田ウィングスでありたい。

以 上